

インフルエンザ - 昨冬の流行状況 -

昨冬 (2003-2004シーズン) のインフルエンザ流行の特徴は、

流行の規模は前年よりやや小さく、埼玉県、全国共に平成16年第5週が報告患者数のピークであった。

分離されたウイルスは、A香港型が大多数を占めたが、少数のB型ウイルスも流行期後半を中心に分離された。B型分離株は、ほとんどがワクチン株とは抗原的に異なる「山形系統」に属するウイルスであった。Aソ連型は全国的にも3株 (本県分離2株を含む) が分離されたのみであった。

などが挙げられます。県内の近年のインフルエンザウイルス分離状況を下表に示します。

これからの流行シーズンを迎えるにあたり、県内においてもSARSコロナウイルス、高病原性鳥インフルエンザウイルス等の海外における動向も視野に入れながら、インフルエンザ流行を注意深く監視する必要があります。全国的には既に今年7月以降、A香港型 (大阪府、愛知県)、Aソ連型 (沖縄県)、B型 (沖縄県) の分離が報告されています。

病原体定点の先生方には、検体採取に御協力をよろしくお願いいたします。

県内のインフルエンザウイルス分離数

シーズン	Aソ連	A香港	B	C	計
1999-2000	185	109	0	3	297
2000-2001	54	33	42	0	129
2001-2002	37	105	21	1	164
2002-2003	0	95	85	0	180
2003-2004	2	64	6	1	73

インフルエンザ、その他の感染症に関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) でご覧になれます。